

すくすく^{に し く}249



編集・発行
札幌市立はまなす幼稚園
令和8年(2026年)3月

札幌市立幼稚園研究主題：

子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育

研究の重点：幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実
～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～

研究の視点：幼児が安心感と信頼感を基盤に、自分の思いや考えをのびのびと表すことができる環境の中で「やってみたい」ことに会い、自ら動きだせるために

今年度は、研究の重点である“長時間保育における幼児期にふさわしい生活”を幼児が送るために、教師と預かり保育士が幼児の見取りや環境の構成・教師の援助についてどのように共有していくとよいのか、また、預かり保育の環境の中で育まれる異年齢を含む友達関係が、どのように通常の保育時間の多様な遊びの充実や、人間関係の広がりにつながっていくかを探ってきました。

また、アドバイザーの先生には実際の保育参観とオンラインでの研修会を開き、御助言をいただく機会も設けました。研究のまとめについての御助言を紹介いたします。



東洋大学 福祉社会デザイン学部 子ども支援学科
教授 内田 千春氏



長時間保育の中では、少しのんびりとした時間や、普段とは違う子ども・大人と関わる機会が生まれます。預かり保育の部屋では、年少から年長までの子どもたちが一緒に過ごします。朝と夕方の時間を、少人数の異年齢のグループで過ごすことで、自然な関わりが生まれます。

今年度の研究では、こうした預かり保育の時間に育まれた人間関係は、通常の保育時間の生活にも引き継がれていました。実際に、預かり保育に参加している子どもたちを媒介として、異年齢の子ども同士の関わりが生まれたり、関係が深まったりする事例が見られました。

また、年下や年上の子どもと関わるようになったことで、これまでとは異なる一面が捉えられるようになった子どももいました。同年齢のクラス内では人間関係の選択肢が限られると考えることもできます。他のクラスの子どもたちとの関わりを通して、好きな遊びを深めたり、新たに「やってみたい」と思うことが増えたりする子どもたちの姿も確認されました。

預かり保育担当の先生が見取る子どもの姿は、担任にとっても貴重な情報となっています。逆に、担任が日中の様子を伝えることで、預かり保育の場での関わりに生かされることもあります。今後、こうした実践がどのように広がり、子どもたちの『やりたい』を支える場となっていくのか、ますます期待が高まります。

R7 年度
研究の取り組みと成果

「今すぐ伝え合おう！」
と意識した連携が大事！

いろいろな人との関わり
を広げるために

- 長時間保育の中で育まれる、安心して関わる
ことができる人間関係の広がり
- 行事など、全学年の共通体験を活かした遊び
り



教師間の連携を深め
安心して過ごせるために

- 「今すぐ伝えよう！！」身近なことをすぐに
伝え合う教師の意識
- 安心感の基盤となる教師との安定した関わり



<札幌市立幼稚園研究主題>

子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育

<研究の重点>

幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実
～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～

<研究の視点>

幼児が安心感と信頼感を基盤に、自分の思いや考えをのびの
びと表すことができる環境の中で「やってみたいこと」に出会
い、自ら動き出せるために

<研究の成果>

☆預かり保育士を含む全職員が「今すぐ伝えよう！」と意識して連携し
たことで幼児理解が深まり、個々の育ちに合った一貫した指導に繋
がった。

☆預かり保育を通した関わりをきっかけに、異年齢の幼児や他クラス
の先生などとの触れ合いが広がり、自分からいろいろな人と関わり
ながら「やってみたい」遊びを楽しむ姿に繋がった。

情報の共有が大事！

- ☆幼児の実態について
- ☆幼児の内面について
- ☆幼児の手立てについて
- ☆家庭との連携について

「やってみたい」と
意欲的に遊ぶために

- 自己有用感を感じられ、居心地のよい場や仲
間関係の構築
- 遊びの充実のために、幼児の願いや興味関心
を伝え合える教師の連携



R7 年度 研究の取り組みと成果

いろいろな人との
関わりを広げるために

異年齢を含む友達関係や遊びの広がり
～photo 研修より～

○長時間保育の中で育まれる安心して関わるこ とができる人間関係の広がり

- ・預かり保育士との安定した関わり
- ・親しみのある幼児（異年齢含む）と安心して遊
べる遊具や場
- ・異年齢の交流を促す教師の援助や共通に楽しめ
る遊びや活動
- ・いろいろな教師への信頼感（預かり保育で補完
に入る教師）

○異年齢の幼児と関わることによる興味や関心の 広がり

- ・親しみのある異年齢児の遊び
- ・「同じようにやってみたい！」憧れの気持ち

異年齢を含む友達関係の広がりや繋がりについて
～事例研より～

○安心できる人や場所の広がり

- ・教師が遊びの場に居ること、タイミングよ
く他の遊びとつなぐ言葉掛け
- ・幼児の「やってみたい」気持ちを沸き立たせる
遊びのネーミング
- ・長時間保育で関わった他学年の教師への安心感

○行事など、全学年の共通体験を活かした遊び作り

- ・行事などで体験したことを再現して楽しめるよ
うな物の準備や遊びの場の配置
- ・「同じようにやってみたい！」という憧れの気持
ちからつながる、行事後の環境の構成

<札幌市立幼稚園研究主題> 子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育

<研究の重点> ‘幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～

<研究の視点> 幼児が安心感と信頼感を基盤に、自分の思いや考えをのびのびと表すことができる環境の中で「やってみたいこと」とに会い、自ら動き出せるために

教師間の連携を図ることで
幼児が安心して過ごせる基盤を作るために

情報共有の有効な方法について ～事例研修より～

○「今すぐ伝えよう！！」身近なことをすぐに伝え合う教師の意識

- ①幼児の実態について：安心感をもって過ごすための幼児の姿
- ②幼児の内面について：ゆったりと遊べる時間や空間などの状況
- ③幼児の手立てについて：今、この幼児に必要な対応など
- ④家庭との連携について：保護者や家庭の様子など

預かり保育士との連携について ～Live 研修より～

○預かり時間の環境の構成・教師の援助

- ・安心感の基盤となる、保育士との安定した関わり
- ・過ごし方に見通しをもちやすい時間や場の設定
- ・自分のやりたい遊びを決められる自由な雰囲気
- ・年齢ごとの発達を捉えた保育による、楽しい経験の積み重ね

<R7年度 研究の成果>

☆教師間で「今すぐ伝えよう！」と意識して連携してきたことが、互いの考えを伝え合ったり幼児の実態を共有し合ったりできる安心感や信頼感を築くことができ、その関係性の中で、幼児への対応も担任と同じように関わることで一貫した指導ができ、幼児の発達に繋がったと考える。また、預かり保育の中で、学年ごとの発達を捉えながら楽しい経験を積み重ねることで、保育の中でも異年齢が混ざり合う姿に繋がる基盤となり「やってみたい」遊びに友達と誘い合って遊ぶ姿につながっていったと実感する。それらを踏まえて、預かり保育士が幼児の発達に必要な人的環境として位置づいていることを確信できた。

☆幼児が預かり保育を利用することで様々な教師と関わるきっかけをもてるため、担任外の教師にも安心して関わっていく姿がある。教師側でも学級外の幼児と触れ合う機会となるため、それぞれの遊びの場にやってくる幼児を柔軟に対応できる体制が自然にできてきたのではないかと考える。

「やってみたい」と
意欲的に遊ぶために

異年齢を含む友達関係の広がりを生かすことで、幼児の「やってみたい」気持ちを引き出す環境の構成と教師の援助について
～事例研修より～

○自己有用感を感じられ、居心地のよい場や仲間関係の構築

- ・気の合う友達と繋がって遊べるきっかけ作り
- ・自分の得意を発揮できる居場所作り
- ・幼児が自分で「できる！」を実感できる遊びの提示

○遊びの充実のために、教師間で幼児に願うことや興味関心などを伝え合う。

- ・保育時間や預かり保育時間に楽しんだ遊びを、互いに共有しようとする関係性
- ・預かり保育の時間の教師と幼児の関わりが、日常でも安心して遊べる関係性につながる。

<次年度に向けての方向性>

- ・今年度の研究の視点に基づき、預かり保育士との連携によって幼児が安心感と教師への信頼関係を基盤に、幼児一人一人が自分の思いや考えをのびのびと表すことができる居場所作りや、「やってみたい」ことに会うための環境の構成や、自分から行動しようとする意欲を支えていくための教師の援助について探っていきたい。